

教育学部 教員養成課程

教育学部 学校教育コース（教育心理学専攻）

		到達目標	ディプロマポリシー			
			感じる力	考える力	コミュニケーション力	生きる力
教科教育科目				○	◎	○
総合科目・基礎科目						
教科専門科目	学校教育入門とセミナー	【教育心理学入門セミナー】発達や教育の諸問題について、自ら学ぶための知識や技能を修得すること。 【学校教育最先端セミナー】各分野における最新の研究情報に関する講義を聞き、学問の面白さに触れるとともに、積極的に質問・意見表明を行うことによって、自ら学問研究の第一歩を経験すること。 【教育心理学 PBL セミナー】児童生徒に今役立つ心理学の内容の授業を行い、実施した授業の評価ができること。	○	◎	◎	○
	学校教育実地研究	【学校教育実地研究Ⅲ】大学での学習と現場での実践を往還することにより知識と実践を結びつける力を身につけること。	○	○	◎	◎

	教育心理学研究法	【心理学研究法】心理統計学の理解と活用，調査法によるデータ収集とその分析ができること。分析結果をまとめ，心理学的に研究できること。 【心理データ解析】質問紙調査を実施し、データ入力およびデータ処理ができること。基本的な統計的处理を修得すること。 結果の解釈ができること。調査法の概要を理解すること。 【コミュニケーション論】グループコミュニケーション力の獲得。そして、それを支援するスキルの獲得。 【行動科学基礎実験法】心理学論文の型を体得し、データ収集法を理解できること。適切な論理構成で、心理現象について考察できること。	○	◎	◎	○
	教育心理学研究	【教育心理学研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ】心理学領域の文献講読と各自の関心に基づいて学習・研究を進め、研究成果の報告ができること。	○	◎	○	◎
	認知・発達・学習	【学習心理学】学びの過程を心理学的に理解し、より良い学習指導や、自らの学びを改善するスキルを身につける。 【思考の教育】論理的思考の意義について理解し、自身の推論過程を改善する方策を意識化し、クリティカルシンキングを引き出す指導法について検討できること。 【モチベーションサイエンス】人の動機づけ過程について理解し、関連要因を知ることにより、自己と他者の動機づけを調整する具体的な働きかけについて考えらえること。 【認知発達心理学】認知的側面に関する生涯発達の全体像を把握すること。 【教育評価学】教育現場において目的に沿った評価活動を適	◎	◎	○	○

		切に選択し、実践するための知識および技能を習得すること。				
	臨床・社会	【発達臨床】発達における課題を理解し、子どもの特性に応じて援助方針を考えることができる。 【社会心理学】社会心理学を体系的に理解し、人間の社会的行動についての説明を理解できること。 【学校カウンセリング】子どもや保護者に対して解決のための資源を見出し、それらを活性化させる視点やスキルを身に付け、効果的な支援ができるようになること。 【パーソナリティと人間行動】パーソナリティと人間行動の関係を理解し、心理学研究の方法論を理解できるようになること。 【心理アセスメントⅠ・Ⅱ】目的に応じたアセスメントの方法が理解し、アセスメントに基づいた援助案を作成できること。 【カウンセリング実習】カウンセリングの基本的な構えを身に着け、基礎技術を習得すること。	◎	◎	○	○
	教育心理学隣接領域	【教育の人間学】教育と人間の連関を自ら思考できるようになる。 【子どもの生活と教育】「語り」の成立条件と、「語り」から子どもに迫る方法を、具体的な実践に即して理解できること。				

教育学部ディプロマポリシー（DP）

三重大学教育学部は、学校現場における諸課題に対応できる実践的指導力を身につけた地域に貢献しうる教育人材を育成します。

教育学部は、次のような資質・能力を備えた人に対して、厳格な評価基準に基づいて学位を授与します。

・「感じる力」

教員に求められる使命や責任を理解し、幼児や児童生徒の心身の成長を支えることができる。

・「考える力」

教育に関する専門的な知識や技能に基づいて学級等を経営するとともに、授業等を計画・実践し、さらなる改善策を考え示すことができる。また、教育をめぐる諸課題を把握し、解決策を考え示すことができる。

・「コミュニケーション力」

子どもの多様性を認め、一人ひとりに配慮した教育を行うことができる。また、同僚、保護者、地域の人々と協働しながら諸課題の解決に取り組むことができる。

・「生きる力」

社会人としての教養や公正な態度、柔軟な思考を身につけ、地域社会の動向を踏まえながら、責任ある行動をとることができる。また、自己研鑽の必要性を理解し、主体的・自律的に学び続ける意欲や態度を有している。